

りんご・もも情報

令和3年6月
JA中野市園芸課

りんご

◆ふじ結実調査（5月26日～6月3日） 市内50圃場

	果そう結実率	中心果結実率
本年	49.7%	13.7%
参考R2	67.1%	67.1%

＊結実率は、調査圃場の平均値。

◆特記事項

- ・中心果の結実率が非常に悪い。4/10-11の凍霜害による影響が大きい。
- ・開花期間が非常に長かった（14日間。平年は9日間）
- ・隔年結果。元々、花量が少ない園地が散見された。

本年は、品質・肥大のバラつきが非常に大きく、サビ果・変形果・小玉果などの比率が多くなると予想される。6月に入り、胴サビ散見。

例年よりも摘果回数を増やし、品質を見ながら着果管理を進めていく必要あり。

また、着果量が極端に不足する場合は、1年枝着生果実（通称2年枝）を使う対応も必要。

◆病害虫

- ・枝腐らんが多い。切除および防除の実施。（トップジンM水和剤1000倍加用）
- ・**黒星病の病斑は少ない。**カメムシ類の被害少ない。

●新梢管理のポイント

【着果量が確保されている園地】

通常の新梢管理を行う。樹勢が弱い樹では、樹勢回復を図るようにする。

【着果量が少ない園地】

まず樹体生育をよく観察し、「新梢発生が多く、発生した新梢伸長も旺盛な場合」や「新梢が込み合っていて薬剤が通らない、光がかなり遮られる場合」は新梢管理を行う。

①**新梢管理は6月中に行う。**7～8月は花芽分化・形成期に当たるため、この時期に葉を多く落とすと停止した芽（頂芽）が再伸長し、花芽分化が劣る。

②普通樹の骨格枝背面の徒長枝となりそうな新梢、長く伸長している新梢や冬季に切っておくべき枝を中心に切除する。骨格枝背面は全て切除すると骨格枝の日焼けを起こすため、適度に残すようにする。新梢を切りすぎないように注意する。

③短い新梢（20cm以下のような）は切らない。新梢数が減りすぎると残った新梢が伸びる。

も も

○結 実：凍霜害の影響によりやや結実不足。（摘蕾実施園地は、結実不良園あり）

川中島白桃は、昨年に比べ良好な模様。

○収穫開始期：平年比5日早まる見込み。（詳細は、最終版ももネク収穫予想参照）

○病害虫：4月中旬～せん孔細菌病「春型枝病斑」発病確認。

5/17～28病斑切除強化週間実施

本年は、枝先端部だけでなく中間部・基部にも確認。

6月からせん孔細菌病の葉病斑が散見されており、今後の降雨により果実感染拡大が心配されます。

せん孔細菌病 今後の防除ポイント

- ① 病斑の切除 （葉病斑の近くにある春型枝病斑の除去を徹底する。）
- ② 袋掛け （有袋栽培により、果実感染を防止する）
- ③ 薬剤防除の徹底（詳細は、もも・ネクタリン特報をご覧ください）



春型枝病斑

* 葉病斑の近くに枝病斑あり
現在、葉病斑が出始めており
園地で見つけやすい状況です

葉病斑